

飼料用子実とうもろこしの取組



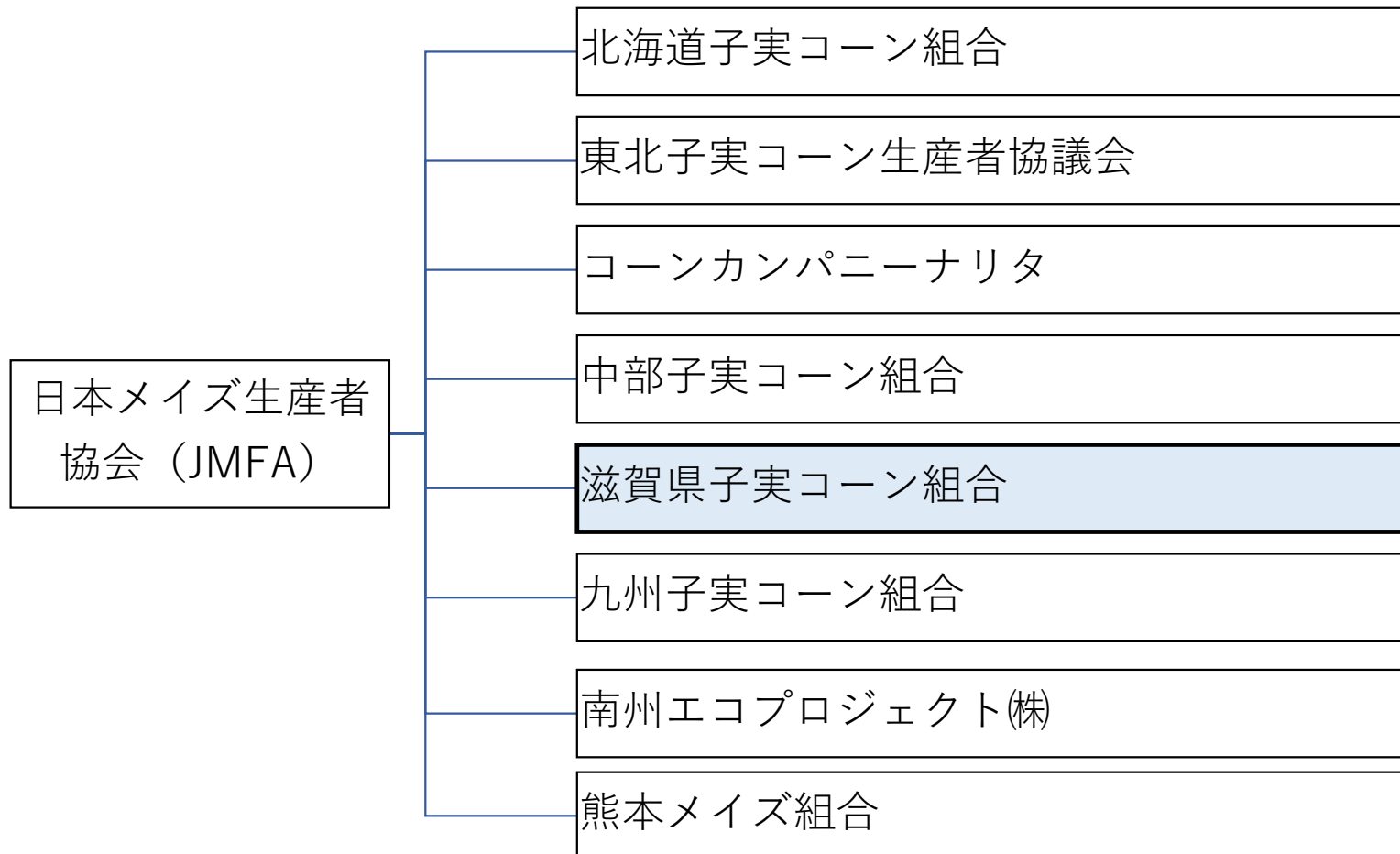
滋賀県子実コーン組合

組合長 久保田 九

組織概要

- 組合員
13名 耕種農家12名 養鶏農家1名
組合員総耕作面積700ha
- 令和4年4月設立
- 作付け面積20ha収穫量100 t (予定)

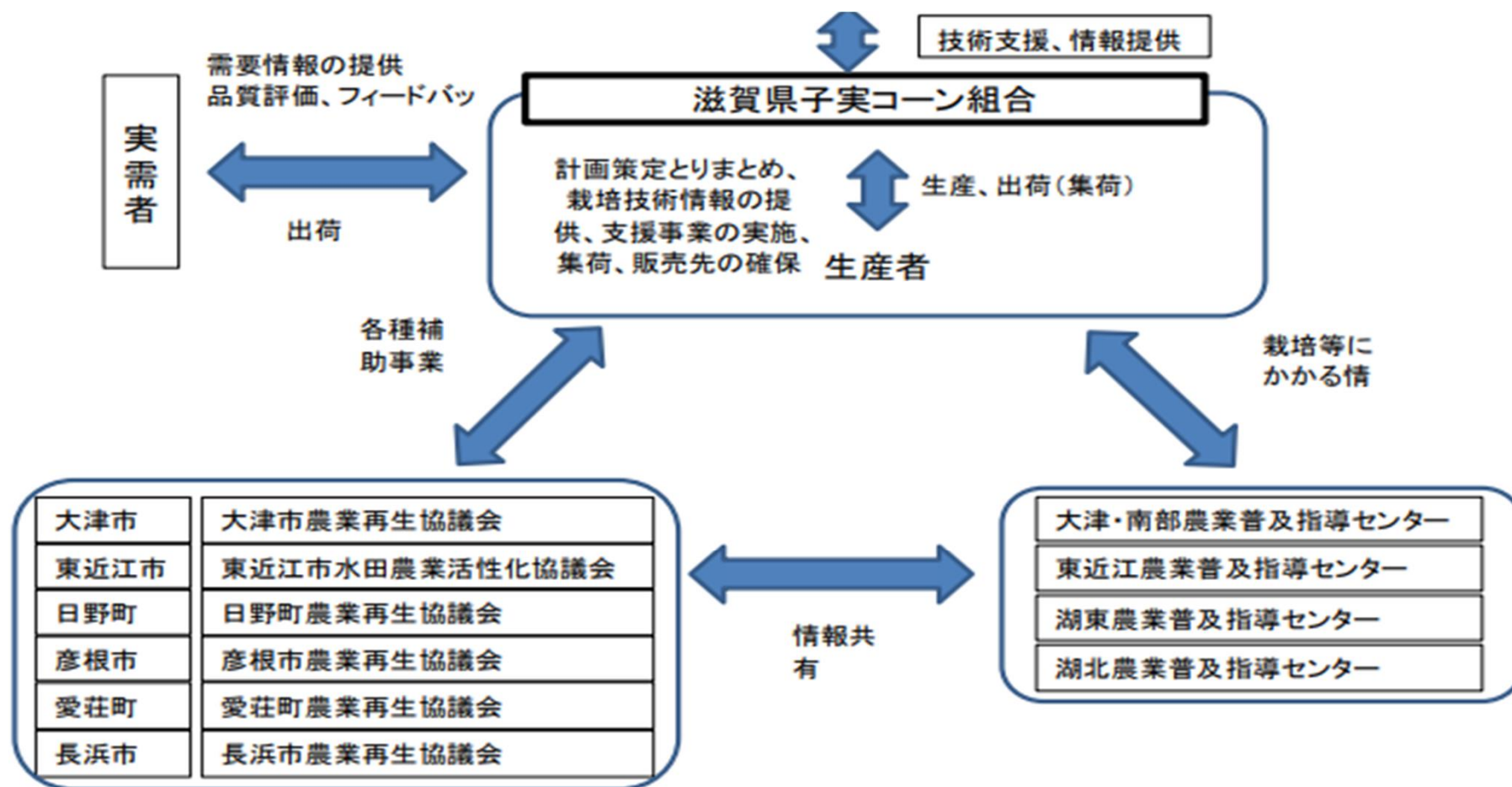
JAMF（全国組織）



取組を始めたきっかけ

- 令和 3 年
 - 耕種農家 2 名が試験栽培開始
 - 県内養鶏農家と勉強会で出会い、意気投合
- 令和 4 年
 - 仲間を集めて、組織化（滋賀県子実コーン組合発足）
 - 水田農業高収益化計画作成
 - 1 年目栽培面積 約10 h a、平均単収 444kg/10 a
- 令和 5 年
 - 栽培面積 約 20 h a、目標単収500kg/10 a
 - 販売会社設立予定

水田農業高収益化推進計画



耕種農家のメリットと課題

- メリット

とうもろこし作付けによる輪作効果

投下労働時間の削減

- 課題

収益性（スケールメリットを生かせていない為）

保管・物流

畜産農家のメリット、課題

- メリット

国産飼料使用等と付加価値をつけれる

価格が輸入に比べ安定する

- 課題

生産量が安定していない

輸入飼料に比べ高額な場合もある

子実用とうもろこし生産上の課題

- 製品の保管場所の確保
- 排水性の良いほ場の確保
- 本州を想定したレベルでの機械化

今後の方向性

- 当面の目標

生産量の拡大

収量の安定化

利益の確保

ご清聴　ありがとうございました